

リニア説明会

5月25日、JR東海と岐阜県期成同盟会によるリニア中央新幹線住民説明会が多治見市において開催されました。会社側からは、環境影響評価の進捗状況、中間駅のイメージと工事開始までの流れなどが説明されました。その後質疑を予定の時間を30分超過し行いました。



住民の不安に向かい合わない会社回答

質問の内容は、「ウラン鉱床問題」「地下水の枯渇問題」「人口密集地の地下を走行する問題」「電気使用量と原発との関係」「リニア無人駅でのトラブルなどいかに対処するのか」「中央線駅の無人化・列車本数減などのサービス低下はないのか」「ウラン残土処理について」「電磁波の影響の心配」「ウラン調査はJR東海独自として行うのか」「期成同盟会などの行政もいいイメージのみの宣伝をしていて住民の立場に立っていないのはなぜか」などの質問が出されました。これに対し会社は、一つ一つ回答を行いました。しかし、質問にもありましたが、説明会は回答が模範解答であり、住民の本当に不安なところに対する答えはなく、問題の先送りばかりするなど、真摯に向かい合い議論する場になっていないものでした。また、初めから手を挙げている方を指名しないなど、明らかに不平等な指名を行っていたところもありました。

2013年(平成25年)5月26日(日曜日)

リニア説明会

環境、健康影響懸念も

多治見 質問相次ぎ時間延長

多治見市産業文化センターで、二十五日に開かれたリニア中央新幹線の住民説明会、環境や健康への影響を中心に質問が相次ぎ、質疑時間が予定を大幅にオーバー。住民の高い関心をうかがせた。

県内での説明会は、昨年に続き二回目。自治体関係者や議員、環境保護団体などから約五百人が出席した。JR側は、環境影響評価を今年夏までに終え、用地取得や着工の際は地元理解を得て進めることを強調した。

質疑応答では、「トンネル工事によって地下水が枯渇したらどう対応するのかわからない」と説明。電磁波についても、

「基礎的な調査を「国際的なガイドライン」を下回り健康影響はない」と答えた。

このほか、リニア開業時に在来線のサービスが低下しないか心配する意見や、巨大地震が発生した時の対策など、質問も出された。

質疑は、予定された一時間を三十分オーバーし、「JRは丁寧な説明を」

「中津川商工会議所の丸山輝城会長は、評価した。中津川市の青山節児市長は「JRもこれから地元と交渉すると言っている。地元各団体など相談しながら要望をしっかりと出してい」と話していた。

「明した。今後の取り組みにも丁寧な対応を期待する」と話していた。

JR側の説明に聞き入る地元住民
＝多治見市産業文化センターで